

## 福島原発災害と水俣病問題に 紛争変容・平和構築の視点から関わる

— 分断、構造的暴力、そして修復的な希望 —

熊本大学 大学院社会文化科学研究科  
交渉紛争解決・組織経営専門職コース  
准教授(紛争変容・平和構築学)

2015.1.15

石原 明子

## <紛争変容・平和構築の視点とは？>

Conflict Transformation/Peacebuilding

あるいは紛争解決・平和構築学の視点とは？

Conflict Resolution/Peacebuilding

## (現代の)紛争解決学の歴史

国外 (Conflict Resolution/Dispute Resolution)

北米: 1983年に最初の大学院、現在150の大学院

国内

2008年 熊本大学 交渉紛争解決・組織経営専攻  
紛争解決学を専攻できる大学院

Cf. 東京外大 紛争予防・平和構築学講座 ©Akiko Ishihara 2015

## 現在の紛争解決学大学院の分類(国際動向)

1. 国際関係論系の中での紛争解決学専攻
2. 法学部系の紛争解決学専攻 (ADR)
3. ビジネススクール、マネジメント系専攻  
(交渉、組織開発など)
4. コンフリクト・リゾリューション系専攻
  - 4-1. 交渉/メデイエーション系
  - 4-2. Strategic Peacebuilding系

熊大は4. 外大は1 九大は2か

George Mason Univ, Harvard Univ.(PON), MIT (Consensus Building),  
Eastern Mennonite Univ. Univ. of Norte Dame, American University  
Bradford Univ. Coventry Univ. その他 ©Akiko Ishihara 2015

## 紛争解決学とは何か？

Conflict: ラテン語のConfligere

Con(共に) Fligere(打つ) → 衝突？

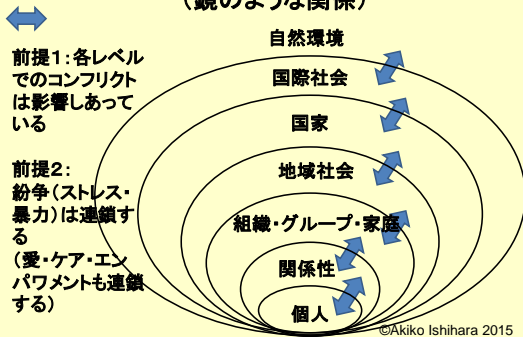
Conflict・・・「紛争」というよりも

葛藤、紛争、対立、もやもや、問題、  
あつれき  
何かうまくいかない人間関係

私たちの生活で、  
こういったもの↑は、どこにあるでしょうか。

©Akiko Ishihara 2015

## さまざまなレベルでの対立・葛藤は連鎖する (鏡のような関係)



©Akiko Ishihara 2015

## 紛争(コンフリクト)の定義・紛争解決学が目指すもの

### <紛争のレベルや種類>

国家間、グループ間、個人間、自分の心の中の葛藤・・・  
(家庭問題、ビジネス、労使関係、教育、医療、環境問題・水資源、その他)

★これらは、すべて連続した中にある！！

★これらに共通する構造と違い、あるいは関連性を見出し、その解決方法を考える学問

例 国家間紛争(日米経済戦争)→米国からA社が叩かれる→トヨタの部長が係長に激を飛ばす・叱りつける→係長は家に帰って奥さんにあたる→奥さんはいつもは優しいのにイライラして子供を理不尽に怒鳴ってしまった→子供が学校でウサギをいじめる(あるいはお友達をいじめる)

©Akiko Ishihara 2015

紛争解決学・平和(構築)学は、  
社会や組織の医学・健康科学と  
イメージするとわかりやすい

歴史的変遷あるいは流派:

Conflict Resolution 紛争解決  
Conflict Management 紛争マネジメント・管理  
Conflict Transformation 紛争変容・転換

©Akiko Ishihara 2015

紛争解決学・平和学は、社会問題の医学・  
健康科学とイメージするとわかりやすい

紛争解決学

Conflict Resolution  
紛争解決

Conflict Management  
紛争マネジメント・管理

Conflict Transformation  
紛争変容・転換

医学・健康科学

Treatment 対処療法的  
症状・疾病の治療

Disease Management  
疾病管理

病気や症状は、自分のライフ  
スタイルや生き方、より隠れた健  
康問題を見直すチャンス(東洋  
医学的、予防医学・ヘルスプロ  
モーション的)

©Akiko Ishihara 2015

紛争変容・平和構築学の目的

真の目的は、紛争の解決や紛争をなくすことでは  
ない。その先にある**平和**の実現。

紛争や対立は、**平和**への入り口とみる(紛争は宝)。

紛争や対立から、できれば**非暴力的なプロセス**で  
**平和・正義**を実現しようとする。

(対話は、紛争変容・平和構築のための重要な手  
段の一つだが、それがすべてではない)

©Akiko Ishihara 2015

平和ってなに？

= **暴力**がない状態

1. 物理的暴力⇔心理的暴力
2. 影響力の積極的行使⇔消極的行使
3. 傷つけられる客体の存在の有無
4. 影響力を行使する主体の存在の有無
5. 意図された暴力⇔意図されない暴力
6. 顕在的暴力⇔潜在的暴力



平和学の父  
ガルトゥングさん

直接的暴力、構造的暴力、文化的暴力

平和学の父:ガルトゥングさん

©Akiko Ishihara 2015

平和ってなに？

= **暴力**がない状態



「(暴力とは) あるものに対して影響力が行使された結果、彼が  
現実に肉体的、精神的に実現しえたものが、彼のもつ潜在的実  
現可能性を下回った場合、そこには暴力が存在する。可能性と  
現実とのあいだの、つまり実現可能であったものと現実に生じた  
結果との間のギャップを生じさせた原因が暴力」

「J・ガルトゥング 構造的暴力と平和」より

直接的暴力、文化的暴力、構造的暴力

©Akiko Ishihara 2015

平和ってなに？

= **暴力**がない状態



すべての人がその潜在的可能性をフルに生  
かして生きられる社会

すべての人が幸せにいきいきと生きられる  
社会

直接的暴力、文化的暴力、構造的暴力がない

©Akiko Ishihara 2015

平和と暴力とコンフリクトの関係図(日本人バージョン)



・紛争変容の概念に基づいた紛争解決学

平和構築と迷った紛争解決学が目指すのは？

紛争解決学って いったい何する学問？

↓  
**紛争や対立・問題を入りにして、平和を作ろうとする学問**  
 すべての人がその潜在的可能性をフルに生かして生きられる社会を目指す  
 すべての人が幸せにいきいきと生きられる社会を目指す

紛争解決屋は紛争を宝とみる

紛争解決支援屋・紛争変容支援屋がもっている共通信念

「紛争は、より大きな幸せへの入り口」

紛争は、他者や自分とより深く出会う入り口

自分や社会の全体性を回復するための入り口

自分のより大きな利益実現のための入り口

©Akiko Ishihara 2015

では、どうやって紛争や対立を入りにして  
 平和を構築していくのか？

紛争解決(紛争変容・平和構築)の実務プロセス

<医療や健康づくり>

1. 診断(診察や検査)  
健康じゃない状態・病気はどこにあるのか？  
その原因は何なのか？
2. 治療方針の決定
3. 治療
4. 評価
6. 研究

<紛争変容・平和構築>

1. 見立て(アセスメントと分析)  
平和じゃない状態・暴力はどこにあるのか？  
その原因は何なのか？
2. 介入(働きかけ)計画の決定
3. 介入実践
4. 評価
6. 研究

©Akiko Ishihara 2015

熊大の大学院での  
 紛争解決学教育カリキュラム

<紛争変容・平和構築の実務プロセス>

1. 見立て(アセスメントと分析)  
平和じゃない状態・暴力はどこにあるのか、その原因は何なのか？
2. 介入(働きかけ)計画の決定
3. 介入実践
4. 評価
6. 研究

<基礎編>

コンフリクト分析(1. 見立て、2. 介入計画)理論(1. 見立て、介入計画)実践(プラクティス)(3. 介入実践のため)研究方法論(1. アセスメント、4. 評価、6. 研究のため)

<アドバンス>

手法編: 修復的正義、U理論、プロセスワーク、コーチング、アート手法、NLP、組織開発(AI)など  
 周辺知識: 実務家講義、法社会学、経営マネジメント、医療リスクマネジメントなど、水俣や福島の実例など

©Akiko Ishihara 2015

対立・葛藤が起こる理由と解決理論の対応表

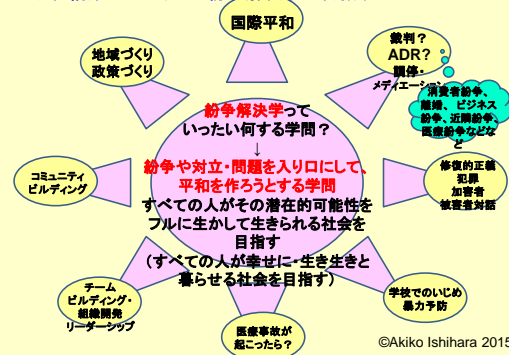
(どうやって、対立や葛藤の裏(裏)にある声を聞いて、平和の実現に向かって変容をもたらすか)

- |                           |  |
|---------------------------|--|
| 1. ニーズが満たされていない、利害が対立している | 1. 非暴力コミュニケーション<br>ウィン・ウィン解決             |
| 2. 連鎖する紛争・ストレス・暴力         | 2. トランスフォーマティブ、エンパワメント、カウンセリング、トラウマヒーリング |
| 3. 認識の相違                  | 3. ロールチェンジ、プロセスワーク                       |
| 4. 文化や価値観の相違              | 4. プロセスワーク、異文化への気づき                      |
| 5. 加害・被害関係                | 5. 修復的正義                                 |
| 6. 権力関係、力の差               | 6. カールモデル、非暴力社会運動、ドボカシー                  |
| 7. 構造的な問題(暴力)             | 7. 調査、6を経由して構造改革など                       |

©Akiko Ishihara 2015

・紛争変容の概念に基づいた紛争解決学

平和構築と迷った紛争解決学が目指すのは？



## 紛争変容の概念に基づいた紛争解決学

普通は、私たちは、対立や葛藤や紛争自体を、いやなもの、悪いもの、また、無くすべきもの と思うことが多い。

対立や葛藤や紛争 がないのが、「平和」(良い状態)だと考えがち

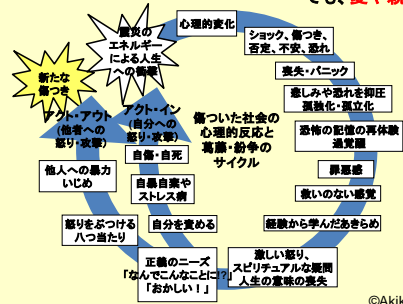
そうではなくて、対立や葛藤や紛争こそが、平和への入り口で、平和への誘い水でヒントの詰まった宝

対立や葛藤や紛争の うらにある  
ほんとうの「声」「さけび」を聞いていくことが必要

©Akiko Ishihara 2015

## もう一つ大切なこと

対立・葛藤・紛争あるいは暴力やストレスは、形をかえて、連鎖していくということ (最初の経済戦争→ウサギの例) でも、愛や親切も連鎖する



©Akiko Ishihara 2015

## 紛争(コンフリクト)を構成する要素と特徴・解決方法

Conflict:

法的紛争のみならず、心理社会的レベルも含めた葛藤・対立もめごと、問題、葛藤、うまくいかない感じ

<Conflictを構成する要素は? =Conflictの定義>

1. 利害の対立 ←ウインーウイン解決  
IPI 分析 (Issue, Position, Interest 分析)
2. 破壊的関係性(関係性の悪さ) ⇄ 建設的関係性(よい関係性)  
不快な感情(怒り、恐怖、憎しみなど)  
←承認とエンパワメント、感情のケア
3. 世界観、価値観、言語、文化の違い  
←異文化コミュニケーション、役割交代、文化差調整・翻訳
4. 力の差、権力関係  
←カールのモデル、非暴力社会変革、アドボカシー

<Conflictの特徴として>

4. 紛争は連鎖する  
←場の理論、修復的正義
5. 紛争は形や対象を変える  
経済的資源、感情的資源、心理的資源など

©Akiko Ishihara 2015

どうやって、対立や葛藤・紛争を入口に、みんながより幸せに生きられる社会を作っていくのか?

1. 対立や葛藤・紛争が起こるメカニズムと、解決方法を学ぶ

2. 対話の仕方、異なった視点との出会い方を学ぶ

3. 根本原因をみんなで分析して、みんなが一緒に生きられる社会をつくるための計画づくりをみんなでしよう

©Akiko Ishihara 2015

## 原発災害の被害を受けたコミュニティでの人間関係の分断(コンフリクト)へ介入事例

福島原発災害と水俣病問題に  
紛争変容・平和構築の視点から関わる  
一分断、構造的暴力、そして修復的な希望—

©Akiko Ishihara 2015

## 地域や家庭での人間関係上の葛藤

- 家庭: 母親 VS 父親/おじいさん、おばあさん (原発離婚)
- 避難した人となしな人との間での絶縁 (「裏切り者!!」)
- 農家と子どもを持つお母さん(敵は目の前にいた!)
- お金をもらった人ともらえない人・補償の対象になる人ならない人
- 学校でのいじめ
- 放射能を心配する人・しない人(することに疲れた人)  
マスクをするか、学校水泳に参加するか、九州から野菜取り寄せるか

本当の敵はあなたの隣の人ですか?

©Akiko Ishihara 2015

**子どもをもつ親御さんたちの心配・悩み(2011.7)**

1. 子どもの学校生活  
 >除染(校庭の表土剥ぎは小学校では終わったが中学校以上ではまだ)  
 >部活など日常生活の継続が大丈夫か  
 >学校給食で地産地消を続けるとの教育委員会の方針について
2. 何が危険で何が大丈夫かという具体的な情報  
 どの道が? どの食物が? どの料理方法が?  
 洗濯ほしや窓あけは?—ただ「安全です」だけじゃ困る!
3. 地域や家庭での人間関係のコンフリクト

©Akiko Ishihara 2015

**Background of Family Conflict**

1. 情報ソースと内容の違い  
 母親: インターネット、県外の友人から  
 父親: 会社、男性誌、新聞  
 祖父・祖母: NHKや政府広報  
 Cf. 福島県内の新聞と全国紙の差もある
2. 県民性としての集団凝集性、仲間意識(日本の伝統社会)
3. 心理的防衛反応
4. 高ストレスとアクトアウト・アクトインとしての傷つきの連鎖
5. 長男としての役割、母親の役割
6. 土地への根付き方の違い

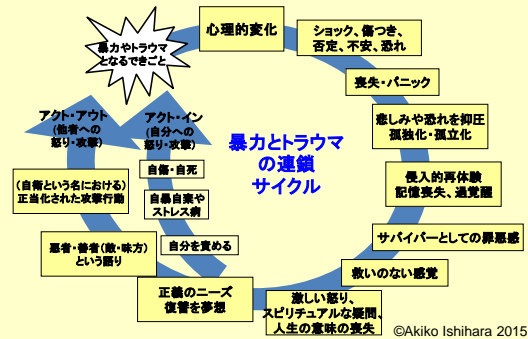
©Akiko Ishihara 2015

**災害における ストレスとコンフリクト**

大規模災害後には、社会の中で大きなコンフリクトが起こりがちである  
 環境災害のケース、とくにそれが人間の・・・では、起こりやすい。水俣のケースでわかるように・・・。それはなぜか。

©Akiko Ishihara 2015

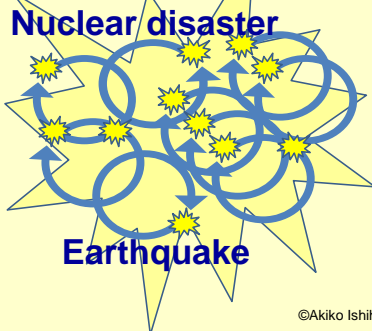
**破壊的關係性(關係性の悪化)、不快な感情(怒り、恐怖、憎しみなど) 暴力とトラウマは連鎖する**



©Akiko Ishihara 2015

**What are happening in the Nuclear Disaster Areas?**

**In Fukushima, etc**



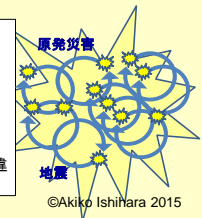
©Akiko Ishihara 2015

**災害→コンフリクト (傷ついた社会)**

大規模災害:  
 災害にあった社会のすべての存在(人々,政府,企業)が傷つき、大きなストレスを得て、被災者サイクルの中に入ってしまった。  
 “傷ついた社会、コミュニティ”(恐怖に支配されている)

**傷ついた社会の「症状」**

- ・心理的变化(ショック,否定,恐怖感,怒り,悲しみ)
- ・真実を語ることの困難・情報隠し
- ・民主主義からの退行
- ・人間関係の崩壊
- ・善・悪や敵・味方という語り
- ・社会的排除、いじめ
- ・カルト宗教・ヒロイズム(ファシズム)
- ・アイデンティの強化(「私たち」は「あなたたち」と違う) など。



©Akiko Ishihara 2015

**コンフリクトや人間関係の分断がなぜ起こるか？**  
**Why?--Conflicts in communities and families**

- 1) 皆が傷つき、ストレスを抱えている(心理的メカニズム)  
 Stress, Trauma, and Conflict アクトイン・アクトアウト
- 2) 危機においては世界観や価値感の対立があらわになる  
 Conflict of World View and Values
- 3) 構造的暴力でより“弱者”にしわ寄せ  
 Social Disparities and Structural Violence
- 4) 自然という人間のニーズの根源が破壊された時の人間の弱さ  
 Natural Environment and Basic Human Needs
- (5) 既存の裁判制度や補償プロセスにおける敵対的な交渉過程が  
 コンフリクトを誘発する)

**本当の敵はあなたの隣の人ですか？** ©Akiko Ishihara 2015

**環境災害・環境汚染-> コンフリクト なぜ？**

- (1) 環境災害・汚染は、人為が想定される  
 →ある種の 被害者-加害者関係が想定される  
 自然災害 < (人が関わった)事故 < 意図的な暴力行為
- (2) 既存の裁判制度や補償プロセスにおける敵対的な  
 交渉過程がコンフリクトを誘発する
- (3) 環境は文字通り人間を取り囲むものであり、それが汚染されたときに、ストレスに囲まれるような状態になる。特に自然環境は、人間のベーシックニーズを支える重要なものであるため、それが壊されたときに、人間は脆弱性を増す。  
**★災害による被害は、社会階層の低いほうに蓄積する傾向がある**

©Akiko Ishihara 2015

**「分断の変容」と「コミュニティや人生の再生」のための戦略(モデル)**

1. 修復的再生モデル (cf.修復的正義とSTARの哲学をベースにした)  
 cf. 内戦後のコミュニティの和解と修復的正義のモデル  
 修復的正義、と、 STAR(トラウマヒーリング)は対
2. アシンメトリック・コンフリクトへのCurleモデル  
 →非暴力社会運動(Raising Awareness)

©Akiko Ishihara 2015

**「分断の変容」と「コミュニティや人生の再生」のための戦略(モデル)**

1. 修復的再生モデル (cf.修復的正義とSTARの哲学をベースにした)  
 修復的正義: その加害被害行為に影響を与えたり受けたりした人々を可能な限り含めて、癒しをもたらすことをできるかぎり正しくするために、行われた害と、(関係者の)ニーズと、(ニーズを満たすための)義務が何であるかを協働的に同定して、それに取り組むプロセスのことである  
 修復的正義は、必ずしも直接対話が必要ではない。

©Akiko Ishihara 2015

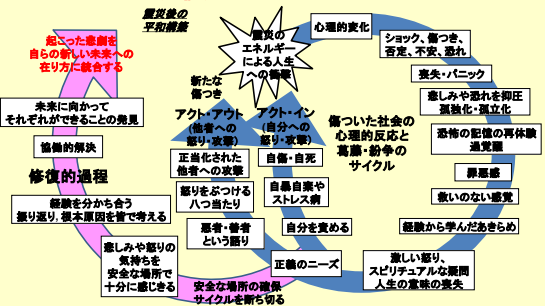
**緒方正人さん**



**Movement of Invitational Forgiveness**  
**赦しへのいざない と 修復的正義**

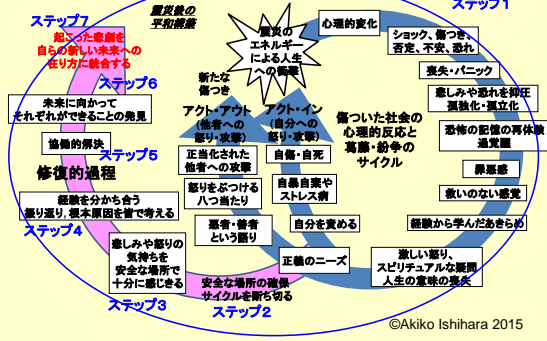
©Akiko Ishihara 2015

**傷ついた社会からの対話を通じた修復的再生モデル図**



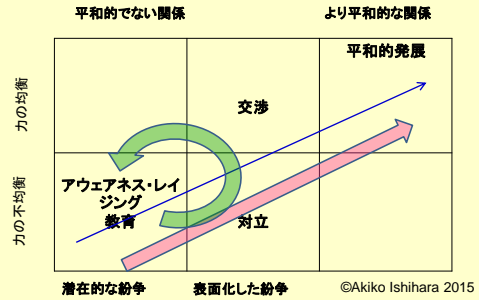
©Akiko Ishihara 2015

### 傷ついた社会からの対話を通じた 修復的再生モデル図



### 「分断の変容」と「コミュニティや人生の再生」のための戦略(モデル)

#### 2. アシンメトリック・コンフリクトへのCurle (Curle 1971)



### 福島若手・中堅リーダーへの水俣(紛争変容)ツアー

#### セオリーオブチェンジ:

1) 水俣を訪れることで、環境災害においてどのようにしてコミュニティの分断がもたらされるかについて気づきが深まり、そこからの変容戦略も伝わっていく

2) 福島のリーダーたちが水俣の修復的哲学の先人に会うことで、リーダーたちの心の中で修復的な変容が起こり、修復的な変容の要素・哲学が、彼らによって福島の他の人たちに伝わっていく

©Akiko Ishihara 2015

### 福島若手・中堅リーダーへの水俣(紛争変容)ツアー

#### セカンダリーな セオリーオブチェンジ:

3) 心の葛藤の変容

4) 分断を抱えた人々が、ともに修復的正義(的な)哲学に触れることで、関係性に変容が起こる  
 ・福島内部での分断の変容 あるいは ネットワーキング  
 ・福島在住者と、熊本避難者、熊本支援者、熊本の一般市民の関係性の変容

5) 水俣と福島の継続的な共に歩む関係

©Akiko Ishihara 2015

#### 11月のツアー(南相馬、いわき、福島市、双葉郡から札幌への避難者)

1日目	2日目	3日目
昼過ぎに到着 水俣駅前集合 <水俣病の歴史・現状学習> 町めぐり 水俣病資料館 坪理 患者さんが行く温泉 夜は水俣の方と交流飲み会 (運動系)	相思社の資料館 見学 語り部の方(吉永理巴子さん)との出会い ほっとハウス(胎児性患者さん)との出会い 語り部の方(杉本肇さん)との出会い 福田農場へ (美しい景色、 水俣ブランドの明るい面) あばこんね(同世代20代~40代)との飲み会	熊本へ移動 熊大でのシンポジウム (熊本市民や熊本避難者への出会い) ©Akiko Ishihara 2015

#### 3月のツアー(南相馬、飯館村、福島市、東京への避難者)

1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
葛藤に訓練 水俣駅前集合 <水俣病の歴史・現状学習> 町めぐり 水俣病資料館 坪理 患者さんが行く温泉 夜は水俣の方と交流飲み会(運動系)	相思社の資料館 見学 永野三智さんとの出会い ほっとハウス(胎児性患者さん)との出会い 杉本肇さんとの出会い あばこんね(同世代)との交流 @大沢菜緒子さん宅	吉本哲郎さん(地元学)・山からみた水俣 福田農場へ海と触れる エコライブとキャンプファイヤー	吉永利夫さんによる「水俣ツアーでどうビジネスを考えるか」 熊本へ移動 熊大でのシンポジウム (熊本市民や熊本避難者への出会い)	緒方正実さんとの出会い 修復的正義赦しと闘い ©Akiko Ishihara 2015

### Outcomes

1. 福島リーダーたちのエンパワメント
2. 水俣と福島間の継続的な交流の開始
3. 分断がもたらされるメカニズムへの気づき
4. 修復的な哲学のうまれ



新しい生まれた活動



©Akiko Ishihara 2015

### 新しく生まれつつある動き

- (1) 2013年12月: 水俣訪問報告会「大きなりんこの木の下で」@福島市  
いわきでの報告会
- (2) 2014年2月: 福島大学の学生による福島と東京の大学生による水俣訪問
- (3) 福島の若手女性による水俣の商品開発提案
- (4) 2014年8月: 福島Girl Cafeに、水俣の若手(男女)の招へい@郡山市
- (5) 2014年8月: 福島で水俣の映画「のさり」の上映会@いわき
- (6) 水俣の語り部を福島に招いての講演会@南相馬
- (7) 水俣コミックバンドの福島への招聘@南相馬
- (8) 2014年9月: 福島の研究者を福島の若者が水俣を案内
- (9) 2014年度から: 水俣の地元学の福島への応用による地域再生事業
- (10) 2014年8月: 水俣病もやい直しの「水俣ハイヤ節」を作った民族舞踊団による福島訪問と支援@双葉郡(この訪問自体は、直接ツアーから発生したものではないが、そこでの人のつながりの強化)
- (11) フェイスブック等での福島の人からの水俣についての発信、水俣の人からの福島についての発信 などである
- (12) 水俣と福島の定期交流事業

©Akiko Ishihara 2015